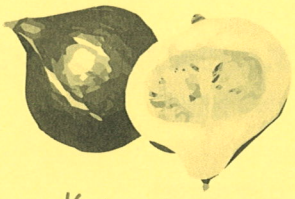
栃木県吹奏楽連盟＜季刊＞広報誌　令和6年度2号

吹奏太郎

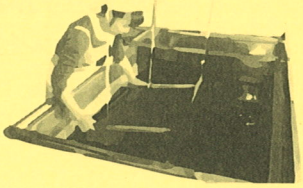
Kobushi

Yamaagematsuri



Kabocha

Ryumonnotaki
& Tetsudo



Washi

Karasu

栃木のあの街こんな街 machi vol.10 那須烏山市

目　次

★巻頭言 …… 1

栃木県吹奏楽連盟副理事長　星　　弘敏

★1　第30回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想 …… 1

中学校の部	宇都宮市立一条中学校	岩本　実桜
〃	宇都宮市立河内中学校	勇田　希美
〃	小山市立第三中学校	髙見　咲來
〃	栃木市立東陽中学校	関根　瑠杏
高等学校の部	栃木県立石橋高等学校	久保田くらら

★2　第24回東日本学校吹奏楽大会に参加しての感想 …… 4

高等学校部門	栃木県立真岡高等学校	花井　優仁
〃	〃	顧問　梅原　愛子
〃	栃木県立真岡女子高等学校	久保奈津季

★3　第30回東関東アンサンブルコンテストに参加しての感想 …… 6

小学生部門	宇都宮市立田原小学校	野﨑ひなこ 他９名
中学生部門	宇都宮市立古里中学校	浦野　将成
高等学校部門	栃木県立宇都宮中央高等学校	境和　　華
大学部門	白鷗大学ウインドオーケストラ部	荒川　妃里
職場・一般部門	作新楽音会	木村　晃子 他４名

★編集後記 …… 9

栃木県吹奏楽連盟広報部　今泉　　剛

巻頭言

栃木県吹奏楽連盟副理事長　星　弘敏

最初に、2024年度最後の「吹奏太郎」の場をお借りして、2024年度中に行われた吹奏楽連盟主催の各種事業にご協力頂いた先生方、生徒の皆様を始めとする多くの方々、参加してくださった皆様に心より感謝申し上げます。今年度は7月、8月に行われた県コンクール、9月に行われた東関東吹奏楽コンクール中学生、高校生部門に続き、例年名古屋で行われていた全日本吹奏楽コンクール中学生、高等学校部門が10月に本県で行われ、栃木県の組織力、運営力により、素晴らしい大会にして頂けました。本当にありがとうございました。

さて昨今、中学校では部活動の改革が盛んに取り沙汰されています。文科省は当初「働き方改革」として令和7年度を目標に「部活動の地域移行」を実現しようと考え計画を進めて参りました。しかし、運動部活動においてはその性格上、比較的容易に進められた地域もありますが、文化部、特に吹奏楽部においては活動場所や指導者の不足等解決しなければならない問題が山積しており、自治体によっては暗中模索の状態が続いているところも存在いたします。最も重要な点は、部活動の主体は生徒であり、決して大人ではないという所にあります。このような状況から、報道等でご存じのことと思いますが、令和6年度「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」が文科省主導の下開催され、令和6年12月に「中間とりまとめ」が発表されました。そこでは、「働き方改革」という文言が消滅し、部活動改革の目的として「急激な少子化が進む中においても、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実していくこと」と改められると共に、「地域移行」では無く「地域展開」として、学校・地域が協力してその目的を達成するよう提案されています。（詳細は文科省のHPを参照）部活動を取り巻く環境は、これからどんどん変化し、その中で指導をなさる先生方のご苦労はいかばかりかと思います。私も40年を越える間、教員を続けながら中学生の吹奏楽部を指導して参りました。思い返すと良いことも悪いことも沢山経験させて頂きました。その中で判断に困ったときに必ず自分に言い聞かせてきたことは「生徒にとって何が良いのかを考えること」でした。このことが良かったか悪かったかはわかりません。ただ、今の自分が存在できるのは生徒達のおかげだと心から思っています。

最後になりますが、最近武田信玄の「正範語録」に感銘を受けました。

1　第30回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想

令和6年9月 7日(土)・ 8日(日)　高校生の部A部門・中学生の部A部門　会場：宇都宮市文化会館
9月14日(土)・15日(日)　高校生の部B部門・小学生の部　会場：横浜みなとみらいホール
9月21日(土)・17日(日)　中学生の部B部門・職場一般の部・大学の部　会場：君津市民文化ホール

「Believe in Ourselves ～感謝と夢を演奏とともに～」

宇都宮市立一条中学校　部長　3年　岩本　実桜

私たち一条中学校吹奏楽部は１年生１名，２年生8名，３年生 10名の計19名で活動しています。私たちは常に「感謝を伝えること」を目標としています。指導してくださる先生方だけでなく，部員同士もお互いのことを思いながら演奏してきました。私たちの今年度の目標は「東関東大会金賞!」でした。昨年度は代表選考会に進むことはできましたが，東関東大会に出場することができず，悔しい思いをしました。そして，この悔しさをバネに毎日練習に取り組んできました。

今年度，私たちが演奏した「ASURA」は興福寺の阿修羅像をイメージした楽曲です。構成は阿修羅の顔と同じ3つに分かれています。冒頭は下唇を噛んだように見える，どこか迷いのある右側の表情を，ロックの要素や非東洋的なビートが入り混じる攻撃的な中間部は，反抗的に見える左側の表情を，後半は迷いを断ち切り，まっすぐ視線を向けた決意みなぎる表情を表現しており，戦いの神である阿修羅が悟りを開いていく様子と小柄ながらも独特な存在を放つ阿修羅像を鮮明にイメージしています。3年生は，修学旅行で奈良の興福寺を参拝し，実際に阿修羅像を見ることで，曲の理解とイメージを深めました。

この曲はダイナミックな表現や細やかなユニゾン部分が多く，息を合わせて演奏できるようになるまでは大変でした。広い場所での練習を増やしたりパート練習の時間を多くとったりすることで少ない練習時間を有効に使いました。意見が分かれることもありましたが，同じ目標に向かって励まし合って乗り越えてきました。

東関東吹奏楽コンクールに出場することが決まった時は本当に嬉しかったです。当日は緊張もあり，納得のいく演奏ができませんでしたが，このメンバーで東関東大会の舞台に立てたことを誇りに思います。結果は惜しくも金賞には届きませんでしたが，みんなで頑張ってきた日々は私たちにとってかけがえのない宝物です。顧問の先生をはじめ，指導してくださった先生方，保護者の皆様，応援してくれた皆様に「感謝」を伝えたいです。」ありがとうございました。

「目指すは金賞」

宇都宮市立河内中学校　部長　3年　勇田　希美

私たち、宇都宮市立河内中学校吹奏楽部は第24回東日本吹奏楽コンクールに出場させていただきました。今年度、私たちが演奏した曲は「November 19」です。タイトルの通り、1863年11月19日、アメリカ合衆国大統領、エイブラハム・リンカーンが行った演説での言葉「人民の、人民による、人民のための政治」が基になっています。私たちは、この言葉を胸に刻み、練習を重ね、常に話し合いを大切にしてきました。特に弱奏の場面では、どんな情景・場面なのか、何色なのか、何を伝えたいのか。皆が同じ思いで演奏することによって、より審査員の方や聞いている方に一つの思いを伝えられるのではないかと思い、細かいところまでこだわりを持ち続けました。

東日本大会は、初めての出場ということもあり、大きな舞台で演奏ができることを楽しみにしていた反面、不安や緊張がありました。しかし、「最後の大会だから笑顔で演奏しよう」と顧問の手塚先生が緊張している私たちに声をかけてくださいました。先生の様子を見ると、私たち以上に緊張している、初めて見る先生の姿があり、驚きやそのような姿を見れた嬉しさがありました。同時に、この言葉は私たちだけでなく先生自身にも言い聞かせているのではないかと感じました。リハーサルから段々と部員の笑顔が見え、気が付くと私も演奏するのがとても楽しみになってきていました。

舞台裏では全員が最高の演奏ができるようにと、皆で笑顔チェックをしたのを覚えています。舞台に立ち、演奏前のアナウンスで「東関東代表」と呼ばれ、急に緊張しましたが、「後悔ではなく納得のいく演奏がしたい!」という思いの方が強く、普段から言われている「いつも通り」を大切にしました。演奏中に弱気になり、諦めそうになった時もありましたが、「ここで諦めたら目標は達成できないよ」という言葉が頭の中にすっと入り、最高の演奏ができるように気持ちを切り替えて演奏を続けることができました。

表彰式では、初めにホールの大きさと美しさにびっくりし、水戸市民会館という素晴らしいホールで演奏できたことに感動しました。また、舞台裏で待機している際に、私と副部長は気持ちを落ち着かせようとしていましたが、手塚先生は緊張のせいか、すぐどこかへ行ってしまって、なかなか戻って来なく、私はとても焦っていましたが、副部長が「焦っても戻ってこないから」という意外な発言に緊張や焦りが吹き飛び、2人で思わず笑ってしまいました。待ちに待った結果発表では、「November 19」という曲で悲願の金賞を受賞することができました。今までに感じたことのない喜びや感動、そして努力の証を皆で感じ、一生の思い出となるような1日になりました。

最後に今までずっと応援してくださった保護者のみなさんや先輩方、そして顧問の先生方に感謝の気持でいっぱいです。3年間私たちに音楽の素晴らしさや楽しさを教えてくださりありがとうございました。

「更なる舞台への第一歩」

小山市立小山第三中学校　部長　3年　髙見　咲來

私たちは、9月8日に行われた東関東吹奏楽コンクールに出場しました。緊張と興奮が入り混じった一日でしたが、部員一同精一杯演奏することができました。あの大きな舞台で、自分たちの音楽を奏でられたことは、一生の思い出です。緊張した面もありましたが、今までの練習を思い出し、一音一音に心を込めて演奏しました。迫力のある演奏をするために何度も練習した自由曲のクライマックスの部分は、当日の演奏でもその成果を出すことができ、とても印象に残っています。観客の皆さんに少しでも伝わっていたら嬉しいです。

このような素晴らしい舞台に立つことができた経験を通して、技術面だけでなく、チームとしての団結力も高まりました。この経験を活かし、これからも音楽を楽しみ続けたいと思います。ご指導してくださった先生方、応援してくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

「東関東大会の経験」

栃木市立東陽中学校　部長　2年　関根　瑠杏

私たち東陽中ブラスバンド部は、栃木県吹奏楽コンクールで金賞を受賞、そして東関東大会に出場することを目標に活動し、昨年度の先輩や3年生に憧れ、少しでも近づけるようにと先輩方の背中を追いかけ、顧問の堀江先生、佐藤先生や、講師の先生方の指導によって日々前進してきました。

練習では、「一音入魂」を意識し、歌心を忘れず全力で取り組んできました。東関東大会の日は迫るにつれて、みんなの思いが高まり、緊張感が増し、曲への向き合い方が日に日に分かっていったように感じます。

東関東大会の当日は、他校の演奏を聴くにつれて緊張しました。本番前にパートの先輩から励ましの言葉やアドバイスをもらったり、堀江先生が一人一人に「ありがとう。頑張ろう」と声をかけてくださったりしたことで、緊張がほぐれ、本番では今までの思いを全て音に込めて演奏しきることが出来ました。今でも、演奏後の達成感を得たみんなの表情は鮮明に覚えています。結果は悔しいものでしたが、今回東関東大会に出場でき、緊張感を味わい、他校の演奏に圧倒される経験ができて良かったと心から思います。

ここにくるまでたくさんの指導をしてくださった先生方、日頃から支えて、助けてくださった先輩方、保護者の皆様、そして共に向き合い、共に笑い時には泣いて、色んなことを経験した部員のみんな、本当にありがとうございました。これからも東陽中学校に関わる全ての皆様への感謝を忘れず、練習に励んでいきます。

「高校生活最後のコンクールを終えて」

栃木県立石橋高等学校　部長　3年　久保田くらら

私たち石橋高校吹奏楽部は、9月7日に宇都宮市文化会館にて行われた第30回東関東吹奏楽コンクールに出場致しました。

「響きが音になる」というテーマで作曲された「カントゥス・

ソナーレ」を自由曲として演奏しました。このテーマが示すように、曲はアンサンブルによる豊かな響きと和声が魅力となっているため、それらをいかに表現するかに重きをおいて練習に取り組みました。部員自身が和音分析を行うなどして楽曲について理解を深め、大いに成長できた夏だったと思います。しかし結果は銅賞。目標には届かず、悔しい思いもありました。私たち3年生にとっては学校生活最後の、人によっては人生最後のコンクール。それでも、これまでを振り返って思うことは「最後に東関東大会に出られて良かった」ということです。吹奏楽は楽しい!ということを改めて実感させてもらえた最高の舞台でした。悔しい思いも仲間との切磋琢磨も、そのすべてが大切な宝物です。これらを糧に後輩の皆には「更なる高み」を目指し、練習に励んでもらいたいです。

最後にはなりますが、私たちを応援してくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2 第24回東日本学校吹奏楽大会に参加しての感想

令和6年10月12日(土)　中学生部門　　会場：水戸市民会館グロービスホール
10月13日(日)　小学生部門・高等学校部門

「東日本学校吹奏楽大会を振り返って」

栃木県立真岡高等学校　部長　3年　花井　優仁

私たち真岡高校吹奏楽部は去年に引き続いて5度目の東日本学校吹奏楽大会への出場を果たしました。このような素晴らしい大会で演奏する機会を与えていただき、とても感謝しています。

今年はグレイアム作曲「メトロポリス1927」という曲を演奏しました。この曲は1927年に公開された映画をモチーフにしています。速いパッセージや美しいメロディーが登場する、高い技術力と表現力の両方が要求される一曲です。

練習では一貫して主体性を重視し、各自が課題を発見して周りに働きかけ、解決できるようになることを目指しました。初めはなかなか積極的に動くことができませんでしたが、梅原先生をはじめとする諸先生方の指導もあり、次第に全員が自発的に行動することができるようになりました。

東日本大会ではそれまでの練習の成果を存分に発揮した演奏をすることができました。結果は銀賞ということもあり、悔しい部分もありますが、東日本大会という素晴らしい場で各地の吹奏楽部と共に演奏を披露し合うことができ、大変誇りに思います。

最後になりますが、私たちの活動に関わって支えてくださった全ての方に感謝申し上げます。三年生はこの大会をもって引退となりますが、大会を通じて非常に価値ある体験ができ、成長することができたと思っています。後輩たちが今後も楽しく意義のある活動をすることを願っています。

「一生忘れられない練習番号 NN」

栃木県立真岡高等学校　顧問　梅原　愛子

ありがたいことに、真岡高校吹奏楽部は今年度も東日本学校吹奏楽大会へ東関東代表として出場させていただき、27名の部員たちと共に試行錯誤を繰り返しながら熱い夏を過ごすことができました。

たった7分間の本番のために長い時間をかけると、曲に書かれた数字やアルファベットの「練習番号」を自然と覚えてしまうものです。今年選曲したグレイアムの「メトロポリス1927」には、金管楽器が華やかに歓喜のフレーズを歌い、木管楽器がスピード感のあるスケールや溌剌としたリズムを刻み、低音楽器と打楽器が迫力と彩りを加える、私たちにとって勝負の練習番号、「NN」という部分がありました。終盤にも関わらずスタミナのいる大変難しい場面で、練習開始当初から手を替え品を替え、練習法を工夫して何度も何度も練習しま

した。スタミナをつけるために毎日必ず練習することにし、床に寝ながら吹き、和音で練習し、歌い、息のみで練習し、指揮無しで円になって練習し、配置を変え…私たちにとっては気づけば口ずさみ、夢にも出てくるような部分になりました。大会前夜、ミーティングで自然と起きた「NN」の大合唱、そして27名全員がこれまでの試行錯誤の日々で得たこと全てを出し尽くした東日本大会での演奏、特に「NN」は感動的で、いまでもあの演奏が蘇ってくるほどです。

結果としては今年度も「銀賞」。生徒も顧問の私も昨年度の何倍も悔しく、帰りのバスの中でも彼らの落胆がみてとれました。コンクールの結果というのは残酷で、どうしても悔しい思いや後悔などがこみ上げて来てしまいます。指導者としても、不甲斐なさのあまりしばらくは現実を受け入れることができませんでした。しかし、曲に粘り強く向き合い、時には部員同士がぶつかり合いながら成長し、徐々に一つにまとまっていく彼らの姿は、まさに「音楽（吹奏楽）を通して人間的に成長する」という、部活動の理想の在り方そのものでした。彼らがたどり着いた東日本大会での演奏と、そこに至るまでの、苦しくも楽しく充実していた青春の日々、そしてその裏には多くの方の支えがあったことを決して忘れず、今後も謙虚な姿勢で音楽に向き合ってほしいと思います。

私たちを日ごろから支えてくださるすべての皆様、そしてコンクールの運営にご尽力くださいました吹奏楽連盟の皆様に深く感謝申し上げます。

「驚心動魄」

栃木県立真岡女子高等学校　部長　3年　久保奈津季

私たち真岡女子高校は、今年度本校初の東日本大会への出場を果たすことができました。今年度のスローガンは、演奏を聴いてくださった方々の心を動かせるような演奏をするという思いが込められた『驚心動魄』、そしてコンクールの目標は東日本大会出場でした。ここ2年間は東関東大会への出場を果たせておらず、この目標を達成することは部員全員にとって非常に大きな壁でした。

4月に今年の自由曲が「いざ咲き匂はざらめやも」に決定したときは、この曲を自分たちのものにして、演奏することができるのか不安でいっぱいでした。部員を中心に合奏を進めていく中で、どうすれば良い演奏ができるのかを部員全員が必死で考えていたがゆえに、常に壁にぶつかり、意見がぶつかり合うことが何度もありました。県大会のときは、東関東大会への推薦をいただいたものの、集中力が欠けてしまい説得力のある演奏ができず、悔いの残る本番となってしまいました。東関東大会までの約1か月間、人の心を動かせる説得力のある演奏を目指していくために、曲の場面ごとのイメージの色や情景を考え、昼休みや放課後の時間をつかってお互いに切磋琢磨し合いながら、曲の練習に励みました。全員が東日本大会に出場するという強い意志があり、練習にはより熱が入っていました。迎えた東関東大会では、ホールとの相性も良く、練習してきたもの全てを発揮することができ、見事東日本大会への出場の切符をつかみ取ることができました。

そして、私たちの目標のステージであった東日本大会。学校行事の影響で前日まで思うような練習ができていませんでしたが、今まで応援してくださった方々への感謝の気持ちを込めて、聴いてくださるお客様の心に届くように力を尽くした私たちの演奏が「金賞」という形で評価されて、本当にうれしかったです。

部長として、45人の仲間たちと東日本大会で金賞を受賞することができたことはとても誇りに思います。顧問の先生方、そして保護者の皆様への感謝を忘れずに、後輩たちにはこれからも高みを目指して頑張っていってほしいと思います。

❸ 第30回東関東アンサンブルコンテストに参加しての感想

令和7年１月25日㈯　小学生部門・高等学校部門・大学部門　　会場：牛久市中央生涯学習センター
１月26日㈰　中学生部門・職場一般部門

「アンサンブルコンテストでの喜びと感謝」

宇都宮市立田原小学校　６年　野﨑ひなこ　公手　蘭　篠原　一花

私たちは『アンサンブルコンテストの県大会で金賞をとり、東関東大会でも金賞をとる!』という目標を立て練習に取り組みました。

初めて楽譜を見た時や曲を聴いた時は、本当にこの曲が弾けるようになるのだろうかと心配でした。とても難しいメロディーがあり、どうしてもうまくいかず落ち込んだ事もありましたが、あきらめずに手が痛くなるまで練習を重ねていくにつれ、少しずつ良い演奏になっていきました。

県大会で金賞をいただき、東関東大会に出場できることが決まり、より一層練習に力を入れました。

このメンバーでの東関東大会出場は初めてで、とても嬉しくて夢のようでした。演奏順一番でとても緊張しましたが、会場に響く自分たちの音が気持ち良く、息を合わせた演奏ができたと思います。客席から大きな拍手をいただいた時は嬉しくて胸がいっぱいになりました。そして「Gold !金賞!!」と告げられた時も嬉しさと幸せな気持ちで胸がいっぱいになりました。

今回一緒に出場した3～5年生チームはとても元気で明るく前向きで、練習中もとても良い刺激をもらいました。東関東大会でも堂々とした演奏を見せてくれました。私たちの自慢の後輩です。

最後になりましたが、私たちがこのような舞台に挑戦し素晴らしい経験ができたのも、最後まであきらめずに一生懸命指導して下さった萩島先生、いつも応援して下さった田原小学校の先生方、毎回の練習に付き添って下さったお当番さん、辛い時、悲しい時、どんな時も側で支えてくれた家族、そしてこのコンテストを運営して下さった方々のおかげです。心から感謝します。

「みんなで頑張った東関東」

宇都宮市立田原小学校　５年　中山　美咲　安田歩乃樺　菱沼あいな
４年　高橋　一加　森田　愛実　塚田 宗一郎
３年　八木澤彩音

私たちは、３・４・５年生7名で「パーカッションパレード」を打楽器で演奏しました。

難しい曲を演奏できるのか心配でしたが、チーム分けをして練習をしたり、何度も音の確認をしたりしました。練習では、テンポキープの練習や細かいところを直すのが大変でした。今回のチームは、6年生がいなかったので、5年生が中心になって練習を進めました。みんなで合わせるのは大変でしたが、少しずつ良くなってきたときは嬉しかったです。東関東大会の栃木県代表に選ばれたときは、とてもびっくりしました。

東関東大会の日は、朝早くから最後の合奏をしました。本番では、上手にできたところと間違えてしまったところもあったけど、とても楽しいステージでした。演奏中、ドキドキしたり、怖かったりする気持ちもありましたが、終わったときには「頑張って良かった!」「楽しかった!」「また出たい!」という気持ちになりました。結果は銀賞で、少し悔しかったですが、みんなと楽しく演奏できて嬉しかったです。

本番で演奏できたのは、たくさんの応援があったからです。萩島先生、応援をしてくれたみなさん、本当にありがとうございました。

「東関東大会を目指した３人の少年たち･･･」

宇都宮市立古里中学校　２年　浦野　将成

僕たちの挑戦は地区・県大会に遡ります。11月あたりから「ケルベロス・ドラムス」の練習を始めましたが、最初は苦悩の連続でした。手の動かし方や、３人で縦を合わせる練習など、大忙しでした。そんな中地区大会に挑み、金賞・代表になったことで、我々の夢もいつからか「東関東大会初出場」が目標になりました。

そして12月26日、県大会がやってきました。今までの練習の成果を発揮するために、全集中で演奏しました。すべての団体の演奏が終わり、表彰式が始まりました。不安が駆け巡る中、告げられたのは「金賞・県代表」。「自分たちも、東関東大会で演奏できるんだ。」そんな気持ちになり、とても安堵しました。

感染が拡大していたインフルエンザ対策をして向かった東関東大会。県大会をかいくぐってきた学校たちの圧巻な演奏。緊張とプレッシャーが更に高まっていきました。その日の演奏は緊張からかテンポが速くなってしまい、多少のミスがありましたが、無事演奏を終えることができました。結果は銀賞で、金賞まであと一歩届かなかった悔しさはありますが、「東関東大会初出場」という夢を達成することができました。

最後に、指導してくれた先生方や、その他にも支えてくださったすべての方々には感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございました。この経験は、一生忘れません。

「東関東アンサンブルコンテストに参加して」

栃木県立宇都宮中央高校　２年　境和　　華

私たち宇都宮中央高校吹奏楽部サクソフォーン四重奏は、1月25日に行われた第30回東関東アンサンブルコンテストに出場させて頂きました。校内オーディションから地区大会、県大会と一筋縄ではいかない事も沢山ありましたが、東関東大会のステージでは笑顔で演奏することが出来ました。私たちはサクソフォーンパートの人数が多かったので、メンバーを選ぶオーディションから始めました。譜面が難しく焦る毎日でしたが、オーディションに通過した時は嬉しさとともに、頑張ろうという強い意欲が湧きました。10月頃から練習を始め、初めの頃は自分の楽譜を演奏するのに必死になっていました。校内でのオーディションも通過する事が出来るか不安な毎日でした。合わせてみても思う様にいかず、メンバー同士で意見がぶつかる事も増えていきました。しかし、毎日朝と部活動の後の時間を使い、ひたすら多くの時間を合わせる事に費やしていくと、練習量を重ねたことで演奏に自信を持つことができ、だんだん演奏が良くなるのが分かりました。必然的にメンバーとは一緒にいる時間がとても増え、意見がぶつかる事も無くなっていきました。そんな中迎えた県大会では、コンディションを万全に整える事が出来なかったこともあり、悔しい部分もありましたが、その分金賞を頂けた時の感動はとても大きかったです。県大会では私たちの思っていたよりも良い成績を取る事が出来たので、東関東大会の練習もモチベーションを高く持ち、集中して練習することを目標にしました。しかし、東関東大会の練習をする過程では、だんだんどのような練習をしたらいいのか分からなくなってしまい練習が行き詰まってしまいました。そこでレッスンの先生にアドバイスを頂き、自分たちの演奏を録音して聞くことを繰り返しました。録音を聞くと自分たちの演奏の穴が多く見つかり、毎度もっと頑張ろうという気持ちになりました。レッスンを経て楽譜の演奏の仕方も大幅に変わり、

やる事が増えた事で大変なこともありましたが、練習に活気づいて取り組むことが出来たのが良かったです。東関東大会では、4人という少人数で立つ初めての大きな大会にとても緊張しましたが、本番が始まると楽しんで演奏することが出来ました。銅賞という結果になってしまいましたが、貴重な経験をさせて頂けて嬉しかったです。この数ヶ月の練習では技術や継続力、忍耐力などこれから先の練習にも役立つものを得ることが出来たと思います。メンバーとも切磋琢磨し合い、最後には自然にそばに居るほど仲良くなることも出来てとても嬉しいです。最後に、私たちがここまでやり切ることが出来たのは、ご指導くださった先生方、応援してくださった皆様のおかげです。この経験の活かし、来年の吹奏楽コンクールに向けて改めて精進していきたいと思います。

「東関東アンサンブルコンテストを終えて」

白鷗大学　学生指揮者　3年　荒川　妃里

1月25日、牛久市中央生涯学習センターで行われた第30回東関東アンサンブルコンテストに出場してきました。我が部からは金管8重奏とサクソフォン6重奏が出場し、それぞれ銀賞、銅賞を受賞しました。

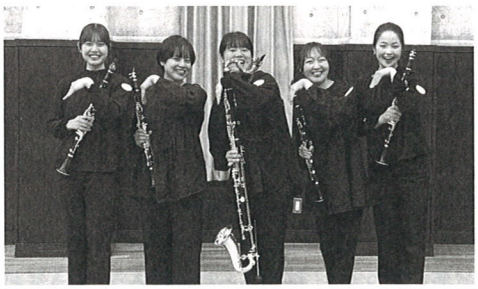
栃木県大会では両グループとも銀賞という悔しい結果に終わってしまい、涙を呑みました。県大会から東関東大会までは約1ヶ月。年末年始を挟むタイトなスケジュールでしたが、県大会の雪辱を果たすべく練習に打ち込み、東関東大会に臨みました。

私は金管8重奏のメンバーとして大会に参加しました。昨年度も同じメンバーでアンサンブルコンテストに参加しており、その際は私が主体となって練習を進めてきました。昨年度の結果は県大会金賞止まり。いわゆる「ダメ金」で東関東大会には進むことができず、非常に悔しい思いをしました。リベンジの意味を込めた今年度は、後輩が主体となり練習に励みました。前回出場時とは全く違った曲調の選曲をし、メンバー全員でより効果的な魅せ方を沢山研究してきました。就活や実習など、大学生ならではの葛藤を抱えながらも、直向きに曲と向き合い続けた時間は私たちの大きな財産です。そして迎えた本番では、全員が納得できる、今までで 1 番の演奏がホールに響きました。演奏後の皆の清々しい顔が忘れられません。素敵な同期や頼れる後輩に恵まれ、納得のいく演奏で大学生として出場するアンサンブルコンテストに終止符を打てたことを心から嬉しく思います。同じ目標に向かって全員で一丸となり練習に取り組んだ時間は幸せなものでした。吹奏楽に出逢って 9 年。吹奏楽を続けていて良かったと切に感じます。

出場にあたり指導してくださった先生方、温かく見守ってくれた部員、応援してくださった全ての方にこの場をお借りして感謝申し上げます。目の前のさらに向こうへ歩んでいけるよう、今後も練習を重ねていく所存です。本当にありがとうございました。

「東関東アンサンブルコンテストに参加して」

作新楽音会　木村　晃子　柿沼　小晴　岸　　絢菜　金子　夏希　中野　文華



作新楽音会「クラリネット五重奏」は第30回東関東アンサンブルコンテストに出場し、金賞を受賞しました。（メンバーは10代の大学生2名と20代30代の社会人3名）

今回取り上げた曲は中村匡寿作曲「ピースコンチェルタンテ」です。全体的に無調的で不安定且つ緊張感のある雰囲気の中、時折見せる旋律の美しさやハーモニー、特殊奏法などクラリネットの多様な表現力を引き出す作品で、難易度の高い選曲に正直ちょっとした賭けだったように思います（笑）。

学生時代よりも練習時間は圧倒的に短いのに理想ばかり追いかけてしまい「これは本番までに仕上がらないのではないか‥」と諦めかけたときもありました。
しかし、世代が異なるメンバーではあるものの年齢差を忘れるくらい仲が良く、いつも楽しく明るい笑いの絶えない時間を過ごせたおかげで曲に対しても全員が一切妥協することなく自分たちの技術の限界に挑戦できたと思います。また身近にいつも全力で練習に取り組む現役の高校生たちがいたことも良い刺激となりました。アンサンブルコンテストを通してガムシャラに練習することは間違いなく大切なことでしたが、「良い音楽を作り上げていく楽しみ」や「聴き手側を意識した音楽作り」の大切さを改めて知ることができました。

社会人になると学生時代とは異なり、どうしても日々の本業が優先になり、日常の中で「音楽」について考える時間があまり取れません。週末の気の合う仲間達との音楽を楽しむ日が待ち遠しく、夢中になれる趣味があること、そういう場所や環境があること、日曜日の練習の後に「もっと練習したかったなあ」と思える幸せを改めて感じています。

最後に私が所属する団体の紹介を少しだけ‥
作新楽音会は、作新学院高等学校吹奏楽部・作新学院大学吹奏楽部のOBOGのメンバーで構成された団体です。「卒業生が吹奏楽を楽しく続けるための受け皿になること」をコンセプトに、20代30代のメンバーが中心となり（団長と指揮者は40代）、高校・大学時代を共にした同期、当時は一緒に活動することができなかった世代の人たちが演奏会やコンクールに向けて活動しています。日頃から作新楽音会を応援してくださる皆様と全力で趣味に打ち込めるこの環境に感謝の気持ちを忘れずに、まずは6月29日（日）宇都宮市文化会館大ホールで開催いたします「作新楽音会ドリームコンサート2025」に向けて、楽しみながら進んで行きたいと思います。

編集後記

栃木県吹奏楽連盟副理事長・広報部長　今泉　剛

少子化と言われて久しいですが、本県においても子供から大人まで、吹奏楽に携わる皆さんは盛んに音楽を楽しみ、演奏会や大会等でも活躍されています。2月に開催された栃木県吹奏楽講習会・スプリングフェスティバルにおいても、小学生と社会人の団体がたくさん参加され、ステージをおおいに沸かせました。今回のステージのように、子供から大人へと吹奏楽文化をスムーズにつなぐためにも、その間の世代にあたる中学校・高等学校の部活動の存在が欠かせません。とりわけ中学校における部活動の地域連携・地域展開の取組は喫緊の課題であり、これから令和十年代にかけて正念場となります。吹奏楽部活動指導員の認定を受けられた皆様、吹奏楽部保護者様、地域の皆様方のお力添えを、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

《お願い》　原稿の執筆依頼が届きましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。